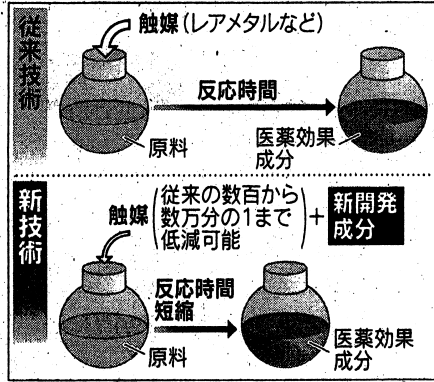


# 製薬、レアメタル触媒節減

## 数百〜数万分の1 岡山大が新技術

岡山大学は医薬品や農薬の製造を効率化できる新たな化合物を開発した。27日に研究成果を科学技術振興機構（JST）で発表する。製造過程で使用するレアメタル（希少金属）など高価な触媒の量を減らせるほか、化学反応の時間を短縮できる。化学メーカーを通じて製薬会社などに売り込む。薬品の多様化で製造費用が増える中、需要が見込めると判断した。



### 反応時間を短縮

▼不斉合成 左手と右手の関係のように対称的な立体の分子構造を持つ化合物を作り分ける合成法。通常は右手型と左手型が均等にできてしまうのを、一方に集中させて合成する。医薬品の場合、片方に医薬効果があつて

医薬品などを製造する際、特定の医薬効果だけを作り分ける「不斉合成」

も、もう片方が有害ということもあり、製薬業界では不斉合成が広く使われている。理化学研究所の野依良治理事長は不斉合成の研究成果が評価され、2001年にノーベル化学賞を受けた。

触媒には化学反応を活性化するための物質を配合するが、従来、多用さ

という手法を用いる。この手法では白金やロジウムといった高価なレアメタルが触媒として必要で、製造費用を押し上げる一因となっている。

価格は200ミリあたり3万円と従来の分子より高いが、触媒の使用量が大幅に減るため製造費用の総額は減るとい

岡山大は試薬大手の関東化学（東京・中央）とこのほど技術ライセンス契約を結び、同社の製品として化合物の販売を始めた。抗ウイルス薬の製造などの用途を見込んで

減らすことができ、省資源化につながる。反応速度も向上するため、より効率的な医薬品の生産が可能となる。

岡山大学院自然科学研究科の是永敏伸助教が開発した化合物を用いると、触媒の使用量を従来の数百〜数万分の1に減らすことができ、省資源化につながる。反応速度も向上するため、より効率的な医薬品の生産が可能となる。

製薬会社からの引き合いがら量産を検討する考えも多く、受注状況を見な

だ。